地域密着型サービス評価の自己評価票

（　　部分は外部評価との共通評価項目です　）

取り組んでいきたい項目

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
１．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に根ざしたホームであることを理念の中に掲げている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	施設内のすぐ見えるところに掲げ、始業時に読み上げ日々新たな気持ちで実践できるよう確認している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議を通じてホームへの理解を深めていただく努力をしている。自治会、老人会へ出向き介護の相談窓口としての利用をしてもらえるよう働きかけている。		
２．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	事業主が長く生活している場であり、常に近隣との交流がある。利用者の散歩時には挨拶を交わしたり、又施設に庭の花を届けてくれる人もいる。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業主の生活の場であり以前より自治会、老人会とのお付き合いがある。地域の子供会の夏祭りに参加したり、一斉清掃に利用者ともども参加している。又ホームでの行事に参加を呼びかけるなど交流がある。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	子供110番や中学生体験実習を受け入れている。また専門性を生かして地域に役立てるよう自治会老人会へ働きかけている。	○	地域に根ざした施設として地域への貢献もしていきたい
３．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	事前に自己評価、外部評価の意義を話し合い、結果については見直し、反省をして即改善に心がけている。昨年は理念の中に地域への貢献についての項目がないとの指摘を受けすぐ見直した。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の生活ぶりや職員の取り組みについて報告し、家族等の要望を聞き、日々の実践に活かすようにしている。 秋の家族旅行について具体的な要望があり、検討してすぐプランに組み込んだ。	○	外部からの貴重な意見を聞ける機会と位置づけ、職員のサービスへの見直しと意欲の向上につなげていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の窓口に気軽に足を運び、個別の利用者の制度利用に関して具体的な相談をし、適切なサービス提供に努めている。 市の介護相談員2名の訪問が毎月あり、職員へのアドバイスを受けている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員会議で地域権利擁護事業や成年後見制度について学んでいる。 必要性のある方については関係機関に相談し適切に対応した。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待は行なっていない。利用者の自宅においても虐待がれた兆候は見られない。職員はケアを行なう中で虐待が行なわれていないか相互に注意、監視を行い防止に努めている。	○	高齢者虐待防止関連法について学ぶとともに日々のケアで生かしていきたい。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
４．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約にいたるまでには何度かホームに足を運んでもらい実際の生活ぶりを見てもらって、話し合いを重ね納得のうえ契約している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者ごとに担当職員を決め、きめ細かな対応に心がけて、苦情、不満を見つけ出すようにしている、家族訪問時には家族とともに水入らずで過ごす時間を作り、家族に話しやすいよう配慮している。	○	相談員を委託している、社会福祉法人道志会井上理事長が月2回程来訪され、利用者の相談を受け、意見を運営に反映している。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2か月に1回ねんりん通信を発行し家族に渡している。 個別には家族訪問時や必要なときは電話で報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時には生活ぶりを伝えるとともに要望、意見がないか聞くようにしている。又表せない不満や苦情はご意見箱を玄関に置いている。家族会では施設側が席を外し、自治会等の第三者との話し合いの場を設け、第三者から意見の発表をしてもらっている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月１回の職員会議、また日ごろから気づいたことはすぐ伝えることができる。実現可能なことは即反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の急変時や家族が遠方、身内がいないなど受診その他でホームが対応することが増えてきている。ホーム対応については家族と事前に話し合いをし個々の要望に沿って柔軟に対応している。それに伴って職員の勤務調整も行なっている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年7月末に2ユニット目が出来、職員の異動があったが早めの職員増員と十分な実習期間を設けて利用者へのダメージはなかった。職員の定着率も高く、異動については家族へも事前に説明し理解を得られた。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修への参加は全職員を対象とし、研鑽している。またOJTも適宜行っている。	○	今年度は介護福祉士に3名合格し、認知症実践者研修にも毎年参加している。これからスタッフの取得したい資格の希望を聞き、キャリアパスを奨励し、職員の資質の向上を図っていく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、ネットワーク作りと研修の機会を得ている。 毎月、グループホーム間での訪問を通じて利用者の交流と同時に職員の研修としている。	○	潤和会記念病院系の「グループホーム悠々」さんと、毎月相互訪問を行い、悠々さんの長所を学び運営に反映している。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員間で自由に話が出来る雰囲気がある。 飲み会の開催、運営者による職員への差し入れや冗談を言える和やかな雰囲気がある。	○	ホームの周囲は草花を植え、時には家庭菜園の野菜を職員に持ち帰らせる等の配慮がされている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は管理者や職員の個々の状況を把握しており、決め細やかな対応をして働く意欲のバックアップをしている。	○	キャリアパスに供い、手当ての増額を行っている。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前の面接時には2人で対応する等、入居前の面接を密に行い、本人自身からの言葉とともに本人の様子を見て、気持ちを受け止めるようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前の面接時に、家族の困っていること、不安なこと、求めていることをお聴きしている。またホームに何度か足を運んでいただき十分話しあえる機会をつくっている。	○	折を見て家庭を訪問し、利用者の生活暦、家庭環境を把握している。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分な話し合いをして必要な支援を見極めたうえで利用をすすめている。		医療保険利用の可能な場合等の事例も研究し、適宜対応していきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が見学の上納得して入所したケースもある。大半は話し合い後の入居になっている。入所したては家族の面会を密にしていただいたり、外出をお願いしている。本人の好きなこと、得意なことをきっかけに早くなじんでいただけるよう工夫している。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除、洗濯、調理などの生活日課をその人の出来る力に合わせて職員と一緒に行なっている。人生の先輩への尊敬の気持ちを常に持ち教えていただく事も多く、良好な関係の構築に日々努力している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日ごろの心身の状況やホームでの生活をお伝えし、行事への参加を通して一緒に支えていく関係であることは理解していただいていると思う。ご家族の訪問も多い。	○	家族と交換日記を行うなど、家族も気軽に参加できる行事をより増やして行きたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族とゆっくり過ごしていただいたり、外出をお願いしたりと、一人一人のそのときの状況に合わせて楽しい時間を持っていただけるよう支援している。 月2回の音楽療法やボランテイアによる歌や踊りのときは家族にも案内して出会をいただいている。	○	歌や踊りだけでなく、マジックショー等の分野も導入し、変化をつけて楽しんでいただくよう、更に努力していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外のなじみの方は家族にお願いして来ていただいたり、近況を伺っている。	○	ご家族のおられない方については職員が同行してなじみの人や場所を訪問できるようにしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	それぞれの得意なこと、好きなことが利用者同士が認め合えるよう職員が間に入りきっかけ作りをしている。 相談に乗ったり体調をいたわりあうなど良い関係が出来ている。	○	笑顔の挨拶から始まり、皆が一つの輪（和）になれるように、黒子として徹していきたい。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所した方との家族と交流があり、面会を希望されたら訪問するようにしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
１．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中で言葉だけでなくその思いを汲み取るように努力している。 会話のなかから、希望を把握し、実現に向けて努力している。また、表せない方には、家族や知人からの情報収集を行い、夢（希望）の把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にその方のそれまでの生活について尋ねたり、入居前のアセスメント、センター方式の採用などを行い、また日々のケアの中で本人から少しずつお聴きしケアに反映させている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その方の心身の状態、行動、思いを職員が見、聞き、理解し記録して総合的に把握して適切な介護が出来るようしている。また、その方の潜在力も探り自ら、把握に努めている。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	家族と十分に話し合い、まずその方の夢（希望）を実現できるようなアイディアをスタッフ間で出し合い、プランを作成している。	○	本人の思いを具体的に盛り込んだ介護計画にしていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3か月ごとに評価見直しを行ない次の計画に反映させている。大きな変化のあるときはご家族に相談し必要な手続きをして新たな計画を作成している。 歩行状態が極端に悪くなった方については変更申請と同時に新たに計画を作成した。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に体温、血圧、食事水分量、排泄状況、心身の状況を毎日記録し職員で共有するとともに、次の介護計画に生かしている。経験豊かな、嘱託の正看護師が常にチェックし、アドバイスしている。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	昨年2ユニット目が開所し、今年は職員の異動があったため利用者との関係作りに力を注いだ。新しい施設は集会場も広いので、合同で遊戯や工作をしたりしている。	○	有資格者2名がいる学習療法をいよいよ実現したい。課題はあるが、、、（実施時の勤務体制、家族が人件費を払ってまで療法をさせたいと思えるプレゼンテーションができるのでは）しかしやってみたいと思う。
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	防災訓練には消防署・団の協力を得ている。赤江東中学校の体験実習の受け入れをして利用者にとっても良い刺激になっている。保育園との交流も2か月に1度くらいある。歌や舞踊、また高校生の介護ボランテイアも良くある。	○	地域と積極的にかかわり開かれたホームにしていきたい
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入所している利用者の介護度も重度化してきている。他のサービス利用について検討の必要性も考えられる。特養の江南よしみ園とも連携の契約を締結し、地域資源の活用に努めている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	在介センターに出向きホームの現状や情報を伝えている。逆に問い合わせや訪問も良くある。連絡協議会での研修時に地域包括支援センターからのアドバイスを受けることもある。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣の内科外科がかかりつけ医となっていて、急な発熱や夜間の受診に対応してもらっている。 3月に退院した方は定期的に往診を受けている内科がある。 市原在宅療養支援診療所とも提携書を交わしている。	○	必要に応じ、2軒隣の巴外科内科から、往診してもらっている。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関としてホームの前の精神科病院と契約している。救急対応の医療機関とも契約している。またホーム隣接の内科外科医院が即座に対応している。	○	左記以外の心療内科医院とも提携して、より専門的な認知症の治療が可能となった。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	経験豊かな正看護師を配置しており利用者の健康状態についての相談に乗っている。	○	利用者及び、スタッフの身内の正看護師がおり、適宜助言をいただいている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入退院時には家族と今後のことについてよく話し合い家族の思いを受け止めている。 退院前には病院関係者と連携をとりアドバイスを受け、退院後の生活がスムーズに出来るように準備している。	○	早期退院になった利用者の場合は往診・受診により、治療の継続ができており、状態報告書を作成し密な連携がとれている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りまでを希望する方がおられ、早くから家族と話し合いをしてきた。医療との連携をとりながら、その人らしい生活を続けられるよう職員全員でケアしている。既に1人の方を看取った経験がある。	○	本人や家族との話し合いにより、全員から見取りの同意書を得ている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療との連携をとりながら、その人らしい生活を続けられるよう職員全員でケアしている。今後の変化に備えては重ねて家族と話し合い最後までその人らしく暮らせるよう最善の方法を考えていくことにしている。看取りの指針も事業所で定めている。	○	事業主が特養の施設長をしていた当時に、自らが看取りの指針を定めた経験から、ホームの指針も作成している。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	病気入院による退去事例があるが、家族とよく話し合い、医療機関との連携を十分に行い、スムーズに次の場へ移ることが出来た。	○	事例では、センター方式や包括式自立支援プログラムでの状況を通知した。以後も面会時に情報を提供し、その方が安心して療養できるようサポートした。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
１．その人らしい暮らしの支援				
（1）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の尊厳を大切にしながら、その方らしく生活できるような理念を掲げている。プライバシーを損ねない対応をしている。また、個人情報の取り扱いには十分に留意している。	○	慣れからくる言葉づかいには、注意していく必要がある。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	生活の場面での本人の意思の確認を行っている。表現できない方には、非言語コミニュケーションや家族からの希望を聞き、支援を行っている。	○	現在、脳梗塞の後遺症による半盲の方の、視力回復のために尽力している段階である。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分にあった過ごし方ができるよう注意深く見守り支援している。	○	常に利用者に目を配り、気配りをして、笑顔で1日を過ごしていけるよう、ケアをしている。
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	髭剃り、整髪など本人の出来ない部分は手伝いながら身だしなみを整えていただいている。洋服選びなど本人の希望を尊重している。理美容は家族、出張カット、行きつけの美容院とそれぞれの希望にそって対応している。	○	まず最低限の身だしなみとして、目脂・髭等は特に注意している。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	椅子に座って、あるいは台所でそれぞれの出来る範囲で調理・片付けに参加していただいている。介助や見守りをしながら職員も一緒に食事をし、楽しい会話をして食事を楽しめるようにこころがけている。	○	料理が上手な方ばかりに頼まず、できれば全利用者で料理・片付けが出来るよう、模索している段階である。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	10時、3時のお茶の時間には皆さんと一緒に楽しんでいただいているが、個別での状況にあわせて好みの嗜好品を準備し、本人の希望するときに個別に対応している。お酒、タバコをたしなむ方はおられない。	○	職員と買い物に行き、食べたいおやつや食材を買う機会をよりつくりたい。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンに合わせて介助、誘導を行い、オムツの使用を減らすよう努力している。誘導の声かけも他の利用者に気づかれないよう配慮している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	隔日の入浴を予定しているが、本人の希望を優先し納得してから入っていただいている。そのときの状況によっては昼間帯以外にもシャワー浴を行うこともある。 入浴前には体調の確認をしている。	○	寒い季節は、先に温熱ヒータで脱衣場を温め、血圧の急上昇を防止すると共に、入浴の楽しみを感じてもらう様な会話に努めている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	起床、就寝時間は本人の体調、気分に合わせて柔軟に対応している。早めに休む人、スタッフとおしゃべりを楽しんでから休む人など。又昼間なるべく活動的に過ごしていただくようにしている。疲れがみえるときは昼寝をしていただいている。	○	眠れない方には、ナイトミールや安心できるような会話等を行い、安眠の支援をしている。 ラベンダーのアロマは安眠効果があるようなので、試してみたい。
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの好きなこと、やりたい事、得意なことを把握しており日々の生活でその力が発揮できるよう働きかけている。	○	その方に残されている潜在力を探っていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の状態、希望に応じて支援している。買い物に行った際は、自身でお金を持っていただき、自身のお金で買い物できる楽しみを持っていただくよう支援している。	○	職員と一緒に出かけ買い物をする日をより多く設けていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日に何度も散歩に出かける、昼食後の散歩で外の空気に触れる、帰宅願望が強いときに外に出て気分転換をするなどその人に合わせて支援している。家族の協力で墓参りやドライブに出かけられることもある。	○	比較的遠い距離に散歩へ行かれる方は、職員による目視と共に携帯式GPSを用い、現在位置の検索を行っている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年に1度は家族と一緒に日帰り旅行をしている。花見や夏祭り、運動会など季節に合った外出の機会をつくっている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人がかけたいときに電話をかけていただいている。家族からかけていただくこともある。家族にも状況を説明し理解を得ている。	○	ホーム玄関先に公衆電話があり、本人の希望を即実施している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人の訪問が頻繁にある。ホールで皆さんとの話に参加されたり、居室で家族でゆっくり過ごしていただくなど自由にしてもらっている。	○	家族や知人の面会時にはお茶を用意し、団欒していただいている。
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	向精神薬の副作用により、他傷・自傷の恐れがあった為、切迫性を認め代替性が無かったので、一時的に拘束を行ったことが一度だけあるが、それ以外は行っていない。 言葉による行動の制限を行なうことのないよう、日々職員間で気をつけている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者は自由に行きたいときに散歩にいけるようにしている。散歩には職員が同行している。万が一の時のためにチャイムやベルを使用して出入りがすぐわかるようにしている。比較的遠くまで行く可能性のある方に徘徊探知機を携行してもらっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者の生活のサイクルや行動パターンを把握しておりその人の安全に十分配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁や洗剤等の危険物は、使用時以外は目に触れないところへ収納し、常に点検している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定例の会議、日々の個別記録、申し送り時を利用して職員で話し合い、対策を共有している。	○	普通救命講習を受講し、事故が起きても早急に対応できる体制にしている。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員は順次、普通救命講習を受講し、事故が起きた際被害が最小限に抑えられるよう訓練している。 マニュアルも作成している。	○	AEDを設置し、全職員に使用への研修を行い、緊急時に備えている。正看護師を中心にした、マニュアルの見直し、定期的な訓練をしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	甲種防火管理者による火災時避難訓練も、毎月行い、様々なシチュエーションを想定し訓練している。ベランダから避難できる滑り台や、玄関の車椅子用スロープも設置し、迅速かつ安全に避難できるようにした。地震、水害等の避難先はホーム前の高台にある病院を想定している。	○	地域の人と一緒に避難訓練をしていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	転倒、他利用者との争いなど一人ひとりそれぞれのリスクについて各家族と話し合っている。連絡先の確認など細かく話し合っている。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日健康チェックを行い、体調の変化に気をつけている。身体の異常を表出できない方のサイレントアピールにも注意し、異変が起きたときは速やかに家族に報告し、かかりつけ医にも連絡して、必要に応じ受診してもらっている。看護師にも報告し指示を仰いでいる。職員間でも情報を共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の服薬している薬の薬事情報を常備し、職員は薬の目的、副作用、用法用量について理解している。。ボードに毎回の実際の薬を見やすく添付して確認できるようにし誤薬、服薬もれのなない様注意している。。	○	副作用においては、医師・薬剤師から教えてもらい熟知できている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日排便記録をつけ、便秘が続くときはかかりつけ医・看護師と連絡を取り指示を仰いでいる。水分摂取、食事の工夫を行い、日中は散歩や体操など活動的に過ごすよう気をつけている。	○	献立に繊維質も含むもの、朝のヨーグルト・牛乳、適度な運動、水分摂取量に注意している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを行なっている。自分で出来る人は横で見守り、出来ない人については介助している。歯科衛生士による月2回の口腔ケア体操を受けている。	○	歯科衛生士から、スタッフに対してのブラッシング等の指導も受けている。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1400～1500kカロリーの食事を提供している。（病状に合わせて100～1200kカロリー）本人の状態、嗜好にあわせて刻み食、軟らかめ、肉を避けるなどしている。水分については表を作り十分取れるよう工夫している。	○	水分摂取量の少ない方には、好きな飲み物を把握し、1500ccを越えるよう支援している。 糖尿病の摂取カロリー指示のある方には、マンナンヒカリを使用し、空腹感・不満感を与えないように配慮している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	外出から帰ったときの手洗い、うがいの励行。外来者にも手洗いうがいをお願いしている。 毎日、廊下の手すり、ドアノブ、浴室の消毒をしている。 インフルエンザ予防接種は利用者、職員全員が受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は新鮮なものを購入、保存に気を配っている。食器調理器具の洗浄は丁寧に行い、食器乾燥機を使用。まな板、布巾等はハイターにより消毒を毎日行なっている。	○	ホームの家庭菜園で採れた、新鮮かつ無農薬野菜を食べていただいており、利用者の皆様には大好評である。
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物が道路沿いにあり、駐車スペースも確保されていて入りやすい。周囲には花がたくさん植えられていて親しみがある。建物横の道は地域の人の散歩コースになっていて、ベランダから挨拶をかわすことが良くある。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	雛飾り、5月節句のタペストリーで季節感を取り入れている。手作りの貼り絵をしたカレンダーには行事の書き込みをして日々確認している。台所は皆さんの顔が見えるところにあり、調理への参加がすぐでき、献立にまつわる話題で話が弾むことも多い。	○	ホームの周りに咲いている花を食堂に飾り季節を感じてもらっている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の時の定位置がそれぞれ落ち着く場所にもなっている。時々の会話や作業、レクレーションの時には声掛け合って場所を移動し楽しく過ごすこともある。ソファで仲良く会話する姿も毎日見られる。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・タンスは備え付けであるが整理棚・カーテン・布団などは家庭からのなじんだものを持ち込んで居心地よくしてもらっている。家族との写真や好きな絵を飾るなど本人らしさが出ている。	○	本人の居室以外にも和室に仏壇を置き、毎朝お茶などを供えている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	開口部をあけて換気に気をつけている。又空気清浄機を設置している。冷暖房については極端に暖かかったり冷えたりしないようしている。季節に合った衣類や、冬はひざ掛けをするなど工夫している。	○	ラベンダーのアロマは心安らぎ・安眠の効果があるので、アロマポットを購入し、使用してみたい。
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	屋内は段差がなく、廊下・トイレ・風呂場には手すりを、出入り口にはスロープを設置している。 個室ではベッド位置をそれぞれの起き上がりの方向や介助の度合いによって決めている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入り口、食卓には各自の名前を書いてわかりやすくしている。トイレには遠くから見えるようにプレートをかけて一人でも行けるようにしている。	○	現在、絵の上手な職員に似顔絵を描いてもらい、居室入り口に貼る予定である。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物に隣接したところには畑があり、利用者は野菜の成長を楽しみにし、新鮮な野菜が日々の食卓に上っている。周囲には花が育てられ利用者や訪問者の気持ちを和ませている。 ベランダでは入所者とスタッフでイチゴを育てている。	○	外の空気に触れベランダでのテイータイムなど施設の条件を生かした豊かな時間をもてるようにしたい。

Ｖ．サービスの成果に関する項目

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

１、食の安全、食べる楽しみを満足していただけるための努力。
「年輪」は約60坪、姉妹施設の「大河」には約110坪の家庭菜園がある。高齢者にとっては、食べることが最大の楽しみである観点から、
無農薬で新鮮な美味しい食材を提供している。
２、一年中花の絶えない環境の創出。
施設の周囲には沢山の四季の花々を植え、心の栄養剤としている。
３、職員の定着率を高める。
職員が働き甲斐を感じることが、利用者への良好な接遇につながることから、職場環境、人間関係、福利厚生の充実に努めると共に、各職員のキャリアアップをサポートして資質の向上を図り、結果として定着率を高めていきたい。